

世界を能へ

—能トレーニングプロジェクト、シアター能楽、英語能と
さまざまな非伝統的な能の活動—

【要旨】

リチャード・エマート*

英語能の劇団〈シアター能楽〉は昨年日本での初めて公演を行い、多くの日本人能楽愛好家が、驚きを持ってこれを受け入れた。実のところ、英語能と呼ばれる公演は、少なくとも1916年のW.B. イェーツの時代から行われている。しかし、英語能と能の影響を受けた英語劇の違いについては、現在でもはっきりとした認識の一致を見ない。

本発表者は、1970年代から、このいわゆる英語能に携わるようになり、作曲や節付、演出等も行っている。2000年に〈シアター能楽〉を創設する以前から、東京での外国人向けの能トレーニングプロジェクト、およびアメリカ、ペンシルバニア州ブルムズバーグでの毎年恒例の夏季集中ワークショップを実施し、これらの活動を現在もなお続けている。今回の発表では主に、こうした活動の状況や問題点について、ビデオを用いて紹介を行った。

なお、当日の配布資料を以下に掲げる。

資料1 能トレーニング・プロジェクト (Noh Training Project)

能トレーニング・プロジェクト (NTP) とはリチャード・エマートが考えた外国人を中心としてのための能の実技訓練 (謡、仕舞、囃子) のワークショップです。現在、東京、アメリカのペンシルバニア州ブルムズバーグ村、イギリスのレーディ

ング大学で行っています。基本的に

1991年～現在 東京での稽古を春、秋、冬に行っています。開始時は週4回のグループ稽古でしたが、現在週2回です。多い時は12人の参加者で、現在5～6人が普通です。最近では日本人の参加者もいます。個人の仕舞を教えながら、グループの謡も教えます。

1995年～現在 アメリカのペンシルベニア州ブルムズバーグ村での3週間の夏期集中ワークショップ。初級者と中級者を対象に、週5日、一日5～6時間の稽古を喜多流シテ方の松井彬氏や大島衣恵氏の指導によって行い、囃子の稽古もします。能のビデオ上演もします。参加者は大体15～20人です。

2011年 去年から初めてイギリスのレーディング大学での新しい 能トレーニング・プロジェクトを開始し、参加者は8人でした。やり方はほぼブルムズバーグと同様で、2年目の今年は2週間半を予定しています。まだエマート一人の指導になっています。



薪能「敦盛」 2012年8月3日、ブルムズバーグにて

*武蔵野大学教授

資料2 シアター能楽

シアター能楽はアメリカを拠点に芸術活動をするアメリカ人、日本人とカナダ人で構成されている劇団です。伝統的な能により近いスタイル、囃子・面・装束・能舞台などの様式をまもりながら、英語での能の上演を目標としています。日本と英語圏の文化と芸術の媒体としての役割を果たしています。

2000年 設立

2002年 英語能「鷹の井」のアメリカでの初公演ツアー

2003年～現在 日本・アメリカ交代で毎年劇作家のための能の構成を教える Writers' Workshop が行う。

2004年 能トレーニング・プロジェクトと共演で日本語による古典能「黒塚」をペンシルベニア州ブルームズバーグでの薪能公演。

2005年 ノースカロライナ州立芸術学校での能ワークショップ。

2006年 英語能「パイン・バレンズ」のアメリカ公演ツアー。

2007年 英語能「ジェーン物狂」のアメリカ公演ツアー。

2009年 能トレーニング・プロジェクトと共演で日本語による古典能「船弁慶」をペンシルベニア州ブルームズバーグでの薪能公演。

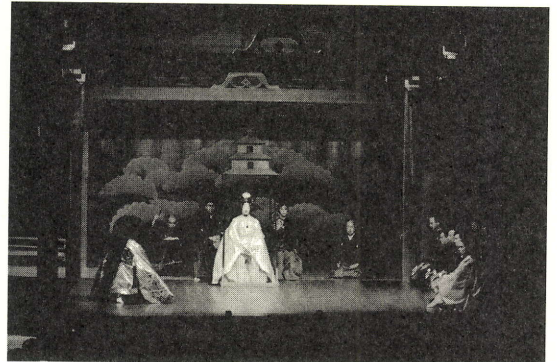
2009年 広島県福山市の喜多流大島能楽堂との共演での英語能「パゴダ」をヨーロッパ公演ツアー。

2010年～現在 毎年劇作家のための能の構成を教える Advanced Writers' Workshop を開催。

2011年～現在 初能の音楽ワークショップ。

2011年 喜多流大島能楽堂との共演での英語能「パゴダ」を東京、京都、北京、香港での公演ツアー。

2012年 初能装束ワークショップ。



英語能「パゴダ」 2011年6月29日、国立能楽堂にて

資料3 英語能の演目（エマート関係の演目）

「聖フランシス」 St. Francis

作：アーサー・リトル [Arthur Little]

作曲：レナード・ホルヴィック [Leonard Holvik]

1970年 アーラム大学で初演／シテ：リチャード・エマート

1975年 東京で再演／演出：ダン・ケニー [Don Kenny]、音楽監督：リチャード・エマート、型付：松井彬

1988年 アーラム大学で学生により再演／編曲：リチャード・エマート、演出：リチャード・エマート、松井彬

[あらすじ] クエーカー教徒の旅人(ワキ)はインド・カルカッタの貧民街でひとりの老人(シテ)に出会う。旅人は老人と言葉を交わすうち、老人のなかに感謝に満ちた聖なる姿を見る。それはあたかもアッシジの聖フランチェスコ(聖フランシス)のようであった。老人は去るが、彼は実は聖フランシスの霊であった。その後、旅人の前に聖フランシスの霊が現われる。若い頃の享楽の日々から脱し、貧者のために生きる決意を示した後、聖人の舞を舞う。

「鷹の井」 At the Hawk's Well

作：ウィリアム・B・イエーツ [William Butler Yeats]

作曲：リチャード・エマート

1916年 ロンドンで初演

1981年 京都・大阪で英語能として公演 (NOHO(能法)劇団) / 演出: ジョナ・サルズ [Jonah Salz]

1984・85・90年 日本・オーストラリアで再演 / 演出: ジョナ・サルズ、リチャード・エマート、松井彬

2002年 シアター能楽によるアメリカツアー (8回・7会場) / 演出: リチャード・エマート、鷹の役: 松井彬

[あらすじ] 永遠の生命の泉を求める若者、クフリン(ケルトの英雄)は、50年も泉が湧くのを待つ老人と出会う。泉の傍らには、鷹の精に取り憑かれて泉を守る女もいた。泉が湧く頃合いになると、鷹の精が舞い、老人を眠らせ、若者を誘い出す。そのためふたりとも 永遠の生命の水を飲むことはできなかった。そして若者は新たな泉を求めて去り、人生を費やした老人は寂しく残された。

「クレージー・ジェーン(ジェーン物狂い)」Crazy Jane
作・作曲・演出: デビッド・クランドル [David Crandall]

1983年 東京で西洋楽器と能の動きにより、初演

2007年 02年の能の曲への改作を経て、シアター能楽によるアメリカツアーで上演

[あらすじ] クレージー・ジェーンという女は、恋人だったトムを探して旅をしていた。ジェーンは、ある町の教会で出会った若者をトムだと言い張り、トムとの踊りの思い出を語り、トムが去ったからの辛い思いを訴える。ジェーンは語りつつ思い出のなかに入り、若者と舞を舞う。ジェーンは舞いながら消え、若者は取り残されてしまう。

「漂炎」Drifting Fires

作: ジャニー・バイチマン [Janine Beichman]

作曲: リチャード・エマート

型付: 梅若猶彦

1985年 つくば万博で初演 / シテ: 梅若猶彦 (観

世流)

1986年 東京・増上寺本堂で再演 / シテ: 梅若猶彦 (観世流)

[あらすじ] 地球滅亡後、ヴェイル星雲からの旅人たちが、炎に包まれる地球を訪れた。そこに真紅の炎を纏う老女が現われる。老女は旅人と会話を交わし、自分は地球最後の女の亡霊だと明かして去る。旅人たちの記憶に引き寄せられ、女は再び戻り、愛と記憶の力に支えられ、失われた美しい世界を想いつつ舞う。そして、新たな創生への希望を持って記憶を散らし、宙へ去る。

「イライザ」Eliza

作: アラン・マレット [Allan Marett]

作曲: リチャード・エマート

1989年 シドニー大学で学生により初演 / 演出: リチャード・エマート、松井彬

1990年 東京・梅若能楽学院会館で再演 / シテ: リチャード・エマート

[あらすじ] オーストラリアのフレーザー島を訪れた旅人は、老女に出会う。老女は難破船の船長夫人、イライザ・フレーザーの物語を語る。イライザはアボリジニと暮らした後に彼らへの偏見に満ちた嘘の物語をシドニーやロンドンで語っていた。老女の物語もまた誇張が入り、旅人は疑いを持って聞く。実はイライザの化身であった老女は、偽りが通じないと見て去る。その後、再び現われたイライザの亡霊は、偽りから解き放たれてアボリジニの祭りとともに踊り、彼らの文化を悟る。

「クレージー・ホース」Crazy Horse

作: エリック・エーン [Erik Ehn]

作曲: リチャード・エマート

演出: 土居由理子

2001年 サンフランシスコで初演

2005年 別名「ラコタの月」(Moon of the Scarlet Plums)として、愛知万博、東京のシアターXのほかアメリカの3カ所で再演 / シテ: 野村昌司 (観世流)

〔あらすじ〕 アメリカン・インディアンの若い女性が夢の告げを受けて、旅へ出る。そこに 19 世紀に生きたオグラ族、ラコタ・インディアンの戦士、クレージー・ホースの霊が現われ、彼女を導き、失われた笛を探させる。彼女は自分のアイデンティティーと文化について考え、平和を祈願する。

「カモメ」 The Gull

作：ダフネ・マーラット [Daphne Marlatt]

作曲：リチャード・エマート

2006 年 カナダ・バンクーバー郊外のリッチモンド市で上演／演出：リチャード・エマート、松井彬／演者：カナダのプロ俳優

〔あらすじ〕 第 2 次大戦中、日系カナダ人の漁師の兄弟は、収容所に入れられていた間に両親を失う。戦後開放されたふたりが、初めて漁にでかけたとき、不思議な女性に出会う。女は兄弟の母に似た運命を語り、母の化身であることをほのめかしてカモメのように飛び去る。その後、兄弟の夢に現われた母の霊は、故郷へ帰れずに死んだ自分の運命を嘆き、訴える。兄弟が、故郷は変わるものと母を説得していると、故郷の鐘の声と港のブイの声が聞こえる。それは故郷と異郷を結ぶものと悟った母は、成仏する。

「パイン・バレンズ (不毛の松)」

Pine Barrens

作：グレッグ・ジオヴァニー [Greg Giovanni]

作曲・演出：リチャード・エマート

2006 年 シアター能楽アメリカツアーで上演

〔あらすじ〕 アメリカ・ニュージャージー州に松しか生えない不毛の地 (パイン・バレンズ) があった。ふたりの魔女が、このパイン・バレンズに仲間を探しにきたところ、沼の老人から、昔この地にいたリーズ夫人が 13 番目の息子を鬼に預けた話を聞く。その後、ジャージー・デビルとなった息子が現われる。お守りを駆使して魔女は戦い、

ジャージー・デビルを打ち負かし、退散させる。

「隅田川」 Sumida River

古典能の英語版

翻訳編曲：リチャード・エマート

2009 年 ハワイ大学の能プロジェクト。1 年間の能授業の集大成として公演。リチャード・エマート指導・演出 (松井彬、大島衣恵指導)

「パゴダ」 Pagoda

作：ジャネット・チョン [Jannette Cheong]

作曲：リチャード・エマート

2009 年 喜多流の大島能楽堂の能楽師、シアター能楽の合同によるヨーロッパツアーで公演

〔あらすじ〕 イギリス人の若い旅の女が、亡父の故郷、中国東南部を訪ねる。そこにあった仏塔のもとに、昔、自分の子どもと悲しい別れをした母とその娘が現れる。二人は、仏塔にきた理由を旅の女に語り終えると、霧の中に姿を消す。旅の女は、近在の漁師から仏塔伝説とともに、母とその娘にまつわる話を聞く。そして母の名は美鈴といい、亡父もまた彼女の子だったと知る。その夜、旅の女の前に祖母の美鈴と叔母の幽霊が現われ、かつての苦勞を語る。旅の女は、母親と息子である亡父を含めて、家族が夢幻の世界で再会していると悟り、異国で命をつないだ子どもたちを思って、仏塔の前に佇む。